

科学館（スペースLABO） 部会における検討結果について

科学館の ミッション

さまざまな方が科学を通じて交流し、科学技術への関心を高め、創造的な活動の拠点として、北九州市の未来を創る原動力になること

ミッション推進 の基本機能

- ① 身近な現象をベースに科学の原理・原則や最先端技術が体感できる展示
- ② 天文学習をはじめ、さまざまなプログラムが投影可能なプラネタリウム
- ③ 科学館でしか体験できない教室・講座等を実施
- ④ 企業や大学、市民など関係団体等との連携・協働

ミッション実現 への7つの視点

- ① 文化観光
- ② 文化芸術推進プラン
- ③ ユーザー目線への転換
- ④ 社会教育ニーズへの対応
- ⑤ イメージ戦略
- ⑥ 企業連携
- ⑦ 地域や他分野との連携

ミッション推進の組織機能

1 事業実施機能

- ① 科学展示運営
- ② プラネタリウム運営
- ③ 特別企画展の実施
- ④ 教育普及
(学校連携、社会教育など)
- ⑤ 来館者サービス (展示解説、イベントなど)
- ⑥ 利用促進 (広報、集客など) ほか

2 学芸機能

- ① 調査研究機能
- ② 科学事業企画
- ③ プラネタリウム企画
- ④ 社会教育 ほか

3 施設管理機能

- ① 維持管理
- ② 施設利用
- ③ 業務委託管理運営
- ④ システム管理 ほか

今後の
方向性



ミッション実現への7つの視点を踏まえ、
科学館の各機能別に、付加価値向上に必要な運営形態を検討

部会委員からの意見・意見から導かれる運営手法の方向性

ミッション実現への視点ごとのまとめ

※「1 文化観光の視点」「2 新プランの視点」は割愛

	視点	各委員の意見・意見から導かれる方向性
3	ユーザー目線への転換	<ul style="list-style-type: none">① 無料ゾーン、ショップ、本物の展示（NASAのネームバリュー）活用② 来館しやすい受付、ニーズの高い無料の遊び場（入りやすさ）③ ニーズにあった柔軟な対応が必要（ユーザーの満足度が働き手の喜びへ） <p>⇒ 民活の方がニーズに即座に対応しやすい 行政では即時対応が困難な場面がある</p>
4	社会教育ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none">① 中高生の学力向上にいかに関連づけられるか② 部活動の「地域クラブ」への移行により科学館の利用価値が高まる期待③ 不登校生徒のオンライン授業実施（教育委員会連携）④ 科学館単体だけでなく子どもたちに北九州市全体を知ってもらうことも必要 <p>⇒ 学芸機能を活かした教育委員会などとの連携は 直営にメリットがある（行政が機能を果たす重要性）</p>

部会委員からの意見・意見から導かれる運営手法の方向性

ミッション実現への視点ごとのまとめ

	視点	各委員の意見・意見から導かれる方向性
5	イメージ戦略の視点	<ul style="list-style-type: none">① アウトレットと観光の親和性を利用すべき② SNSは発信する量（回数）が重要③ 公式の発信による強さもある④ 科学の力を認めてもらう、知ってもらうことが大前提 <p>⇒ 民活は発信力あるが、行政の信頼感にも強みあり</p>
6	企業連携の視点	<ul style="list-style-type: none">① まずはアウトレット内での露出を増やすべき <p>⇒ 行政の信頼感による連携のしやすさあり。 民活はスピード感ある連携が可能。</p>
7	地域や他分野との連携の視点	<ul style="list-style-type: none">① イメージ戦略の視点と同様にまずは発信が必要 <p>⇒ 行政だと公平性の観点が必要。 一方、民活だとある程度ターゲットを絞り込める</p>

運営手法見直しの方向性



- ① 教育委員会と連携して社会教育ニーズに対応するため、学芸機能・教育普及は直営とする
- ② 直営のメリットを残しつつ、民活のメリットも活かす方向で適切な運営形態を検討する

専門家

- ・エンタメ部分は指定管理の強みを活かし、知的・教育的な部分は市の責任で成果を出す必要がある
- ・シニア層など、多様な世代への発信を強化することで、入場者数を増やし、収益向上につなげるべき

利用者の代表

- ・市民が科学館を「自分事」として捉え、積極的に利用できるようになることが重要
- ・民活により市民と科学館の距離を縮めることを期待
- ・経費面と利用者メリットのバランスが取れる方向性で検討を進めることを望む

社会教育分野

- ・教育普及や学校連携は直営のメリットを活かすべき
- ・部活動の地域移行（土日）に伴い、文化系の活動場所が課題となっており、科学館の活用が考えられる
- ・ラーケーションプログラムを提供することで来館者増につながる

民間経営経験者

- ・民間と行政がお互いに歩み寄って課題を解決していく姿勢が重要
- ・今後増加するシニア層の活用も積極的に検討すべき

官民連携（大型商業施設運営）

- ・民間と直営の役割分担は重要で、教育部分を民間に任せるのは難しい
- ・民間と直営が協力して運営する場合、共通の目標（KGI、KPI）を設定し、それをスタッフ全員で共有することが最も重要
- ・目標は時間と共に曖昧になるため、定期的に目標を再確認し、方針がぶれないようにすることが重要

天文学芸員

- ・民活導入の際に競争相手が少ないと、特定の企業が継続的に運営することになり、競争が働かなくなる
- ・プラネタリウムの貸館制度がないため、民活導入を機にプラネタリウムの活用（貸館）についても検討すべき

学識経験者（部会長） ※ 各委員の発言後

- ・広報やサーバー管理などは他の文化施設と共同運営することで効率化できるのではないかと
- ・行政は、コンセプトを大事に、中長期的に運営がぶれないよう骨格をつくることが重要
- ・今回の部会で出された多様な意見を今後の科学館運営に生かすことを期待